



「栃木を食べよう、がんばろう東日本」を掲げる農産物直売所（ろまんちっく村）



当社も応援しています

3月11日に発生した東日本大震災によって、本県農業も農地や農業用施設、農作物等に大きな被害を受けました。

その後、葉物の野菜に暫定基準値を超える放射性物質が飛散していることが判明し、基準値を超えたホウレンソウ、カキナ、シュンギクが出荷停止となりました。加えて県産農産物も風評被害を受け、価格が下落する事態となりました。

当農業振興公社では、4月4日、生産者、事業者、関係機関・団体等に集まっていただき、「東日本大震災に伴う県産農産物の影響に関する情報交換会」を開催し、被害情報の共有化と今後の取組について、意見を交換しました。

現在、各地の農産物直売所や農村レストランでは風評被害を一掃し、栃木の農業を応援する運動が進められています。

目次

- 1 「栃木を食べよう、がんばろう東日本」を掲げる農産物直売所（ろまんちっく村）
- 2 地域住民に愛される道の駅を目指して
- 3 「とちぎ食の回廊」による本県農産物の安全及び誘客促進キャンペーンを実施
- 4 第1回とちぎ夢大地応援団カレッジ活動
- 5 農産物直売所が受けた東日本大震災の影響調査結果
- 6 6次産業化への取組支援がスタート
- 7 栃木6次産業化サポートセンタープランナー一覧
- 8 平成23年度（第20回）ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクールの募集
平成23年度（第18回）美しいとちぎのむら写真コンテストの募集



地域住民に愛される道の駅を目指して 「道の駅にしかた」の新戦略

「道の駅にしかた」は、地域食材を活用した都市農村交流の拠点施設として平成21年11月22日にオープンし、現在2年目を迎えています。

当駅は、敷地面積2haに各種の施設が整然と整備され、中央に位置する農産物直売所「ふれあいの郷」とこれに並列した農村レストラン「ふるさと一番」は「経営構造対策事業」を活用して整備した施設です。

この両施設の1年目の販売実績等は、関係者の努力が功を奏したこと、地元のみならず近県の顧客にも来店をいただき、2億円を上回る販売額となり、順調なスタートを切っています。

この道の駅が、開業間もないにもかかわらず、活性化している背景としては、まず直売所については当初120名の生産者が現在140名に、農産物等も増大し、商品管理や売れ筋商品が確保され、さらには品切れ商品を防ぐため、POSシステムが導入され、1日5回、生産者等へ配信することで、常に高品質な農産物が提供できる仕組みになっています。



農産物直売所「ふれあいの郷」



整然と農産物等並ぶ直売所

次に、レストランでは顧客に喜ばれるよう、四季折々のメニューが開発されています。

特に、夏季限定の桜おとめ（地元産のコシヒカリ）を使った夏野菜カレーは、食材の野菜は隣の直売所から仕入れているので新鮮度で、味には定評があります。

また、レストラン内のジェラートショップでは、いちごのとちおとめや桜おとめを食材にしたジェラートが提供されています。

「道の駅にしかた」は、現在西方町の直営方式で運営を行っていますが、今後は管理会社（第三セクター）にて運営を行うべく準備が進められています。

今後とも、地域住民に愛されるような「道の駅」を目指してスタッフ一同一丸となって取り組んでいく決意であります。



農村レストラン「ふるさと一番」厨房



レストラン内のジェラートショップ



☆☆☆ 「とちぎ食の回廊」による本県農産物の安全及び誘客促進キャンペーンを実施 ☆☆☆

地域活性化の取り組みである「とちぎ食の回廊」は、10の「食の街道」の交流拠点施設等を活用してGWを中心に「食の街道」への誘客促進キャンペーンを実施しました。各「食の街道」が自らの特徴を活かした企画内容で特産品の試食、展示・販売、観光スポットの紹介などを行い、併せて風評被害対策として本県農産物の安全性のPRも行いました。



餃子の街宇都宮ベジフル街道
(地元農産物の販売等)



日光例幣使そば街道
(にらそばの試食販売等)



いい芳賀いちご夢街道
(顔出し"おとちゃん"記念フォト等)



とちぎ渡良瀬いちご・フルーツ街道
(街道パンフレット配布、試食等)



たかはら山麓水街道
(地元特産品の試食・試飲等)



八溝そば街道
(八溝そば街道まつり)



那須高原ミルク街道
(牛乳の試飲等)



那珂川あゆ街道
(地場農産物の試食等)



足利佐野めんめん街道
(特産品の試食、PR等)



歴史とロマンのかんぴょう街道
(かんぴょう汁の試食等)

今回のイベントにはたくさんのお客様にご来場いただき楽しんでいただけたようです。
今後もイベントなどを開催し、県内外の皆様へ新たな観光資源としての各「食の街道」の魅力を発信しながら、街道の広域的な連携を通し、「とちぎ食の回廊」として更なる誘客促進につなげていきます。

第1回とちぎ夢大地応援団カレッジ活動

那須烏山市大木須「オオムラサキ公園」で開催

今年度から 高校生を対象に「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」がはじまりました。

この事業は次世代を担う高校生たちが、農作業体験を交えた農地保全活動へ参加し、農業農村の必要性や重要性について理解を深め、豊かな農村環境の維持・保全・地域資源の創造と継承を目的に実施します。

今年度は真岡北陵高等学校の学生を対象に、大木須むらづくり推進委員会が受入団体として今回と10月及び11月の3回開催します。

第1回は7月24日、オオムラサキ公園で開催しました。学生21名と教頭・引率先生が公園内の草刈り、オオムラサキ飼育舎の網はずし、さといも畑の管理

に汗を流しました。

農作業後は公園内のビオトープで生き物調査を行い、数々の水生生物を採取して観察・分類した後、地元のホタルカゴづくり名人 長山さんから、麦わらのカゴづくりを教えて貰い、悪戦苦闘して基礎を学びました。

昼食は地元のご好意で、手づくりの青竹流しソーメンやコロッケ・サラダ、かき氷などを堪能させていただきました。

午後の交流会では、オオムラサキやホタルの保護など大木須のむらづくり活動についての紹介を受け、学生は自己紹介と感想を述べ、交流を深めました。



参加者



さといもの管理（ピース！）



▶ 生き物調査



草刈り



オオムラサキ飼育舎の網はずし



▶ ホタルかごづくり



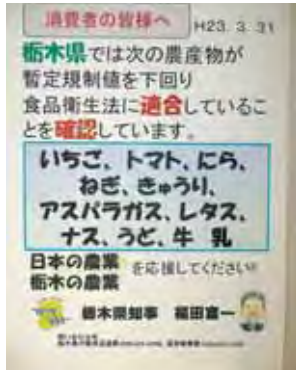
▶ 手造り流しソーメン



農産物直売所が受けた東日本大震災の影響調査結果

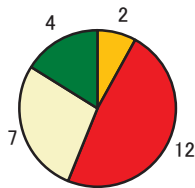
3月11日発生した東日本大震災及び福島原子力発電所の水素爆発等の放射能汚染により、県内の農家を始め、農産物直売所も大きな被害を受けております。

そこで県内7事務所管内の27直売所に対して、当会社の都市農村交流施設活性化推振員と、栃木県交流サポーター連絡会会員6名で、直接訪問してその実態を伺ってまいりましたので、その結果をお知らせします。



1 お客数の推移について（対前年同月比）

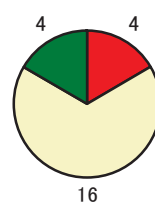
3月（直売所数）



客数増減割合



4月（直売所数）

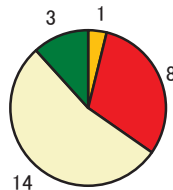


客数増減割合



2 売上高の推移について（対前年同月比）

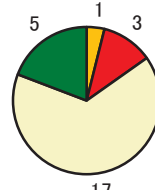
3月（直売所数）



売上高増減割合



4月（直売所数）



売上高増減割合



3 客数・売上高とも大きく影響（低く）した店の共通点

- ・客層が多岐で、特に観光客やゴルフ客で占める割合が約3割以上 [大型複合施設内直売所]
- ・周辺施設の客に依存 [主に温泉地] ・観光客対象 [土産品]

4 震災後影響を受けた商品は

- ・出荷停止3品目と薬物全般 [但し全体に占める金額は少]
- ・大型施設 [土産対象加工品]

5 震災後逆に売れた商品は

- ・米 [平均で約2倍程度アップ] ・加工品 [パン・卵・惣菜類]

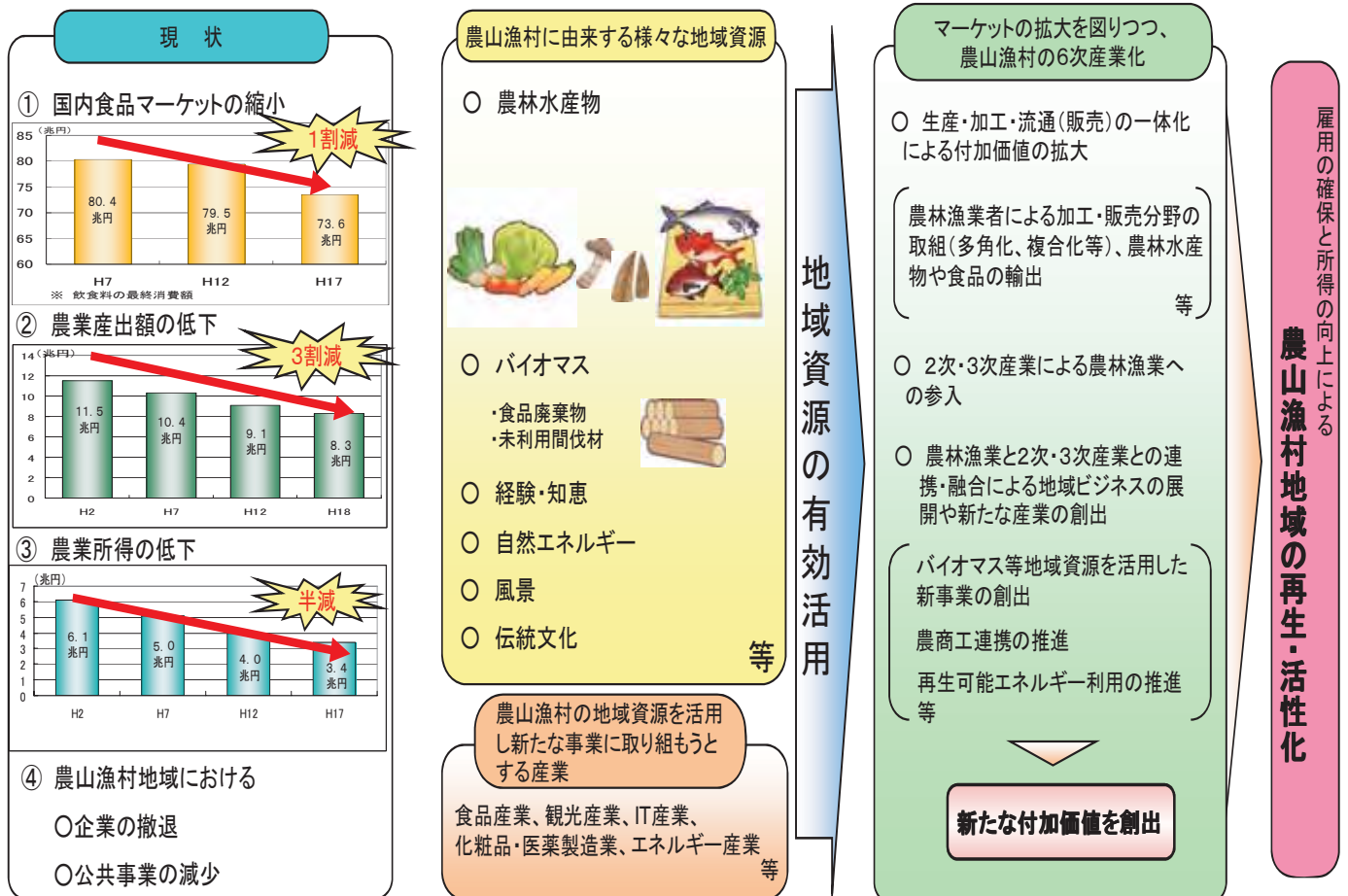
6 来客に影響した理由は

- 1位 ガソリン不足に起因した出歩き自粛
- 2位 原発の影響は地域によりばらつき [県北影響大]
- 3位 観光バス激減、高速道路通行止



6次産業化への取組支援がスタート

6次産業化とは、農林漁業の生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を通じて、雇用と所得を確保し、若者や子供も集落に定住できる社会の実現をめざす取組です。



(財)栃木県農業振興公社は平成23年度国の6次産業総合推進委託事業の推進母体となる支援事業体として承認を受けました。

名称は「栃木6次産業化サポートセンター」と称し、専門的な知識を有するプランナーが創意と工夫を生かした6次産業化に取り組む農業者等を総合的に支援する事業がスタートしました。

今後は、次の6名のプランナー方々が農業者等の新たなチャレンジに対して、優しく丁寧に分かりやすくをモットーに取り組んでいきます。また、プランナーの派遣に要する経費は必要ありません。

「栃木6次産業化サポートセンター」、プランナーと関係者が連携して、本県の地域資源を最大限活用した6次産業化を図り、農業の収益力向上と農村の更なる活性化を目指しましょう。

問い合わせ先

栃木6次産業化サポートセンター（機関名：(財)栃木県農業振興公社）

TEL 028-648-9511

FAX 028-648-9517





栃木6次産業化サポートセンタープランナー一覧



【民間コンサルタント】
こばやし としお
小林 俊夫

夢に向かって、出来る
ことから一步一步と6
次化へ

- 専門分野
 - ・ 農業経営改善、経営管理業務
 - ・ 地域農業振興計画コーディネート業務
- お手伝いします！
 - ・ 経営管理、改善のヒント
 - ・ 地域振興計画のポイント
 - ・ 将来の農業、農村振興方向



【流通・小売・外食】
まつもと ゆずる
松本 謙

農業と食、地域資源を
結ぶ総合プロデュー
サーです

- 専門分野
 - ・ 経営管理全般 ・ 店舗施設経営
 - ・ 流通・マーケティング全般
- お手伝いします！
 - ・ 実践的な商品づくりと販売方法
 - ・ 地域活性化の仕組み構築
 - ・ 新規事業開発など



【民間コンサルタント】
やたべ ともこ
谷田部 智子

夢を一つ一つ「形」に
して行きましょう

- 専門分野
 - ・ 農林水産物（加工品）のマーケティング
 - ・ 新商品開発支援 ・ ブランディング
 - ・ 販売戦略立案・支援
- お手伝いします！
 - ・ 素材を活かした新商品開発
 - ・ 販売促進 ・ ビジネスプラン作成



【民間コンサルタント】
すだ ひでのり
須田 秀規

6次産業化に託し夢の
実現をサポートします！

- 専門分野
 - ・ 商品開発、ブランド形成、販売促進
 - ・ 店舗・施設開発、店舗運営
- お手伝いします！
 - ・ 取組内容に即した事業、連携体制形成
 - ・ 事業展望に応じたビジネスプランの作成
 - ・ 店舗（施設）の運営方法



【民間コンサルタント】
やまもと かつひこ
山本 克彦

食農連携の新製品開発
を支援します
栃木を元気アップしま
しょう

- 専門分野
 - ・ 食品製造技術および生産管理
 - ・ 食品品質管理 食品衛生管理
 - ・ 食品開発研究及び企画開発
- お手伝いします！
 - ・ 食品製造加工方法 ・ 食品素材の利用方法
 - ・ 食品開発企画方法



【民間コンサルタント】
たむら ゆきお
田村 幸夫

地域には優れた資源が
いっぱい。可能性も
いっぱい

- 専門分野
 - ・ 農業・農村の地域振興（むらづくり）
 - ・ 経営改善・経営管理等のコーディネート業務
 - ・ 食品の加工・開発研究業務
- お手伝いします！
 - ・ 地域資源の発掘
 - ・ 特産品の開発、高付加価値化の研究
 - ・ 都市農村交流事業の推進 ・ むらづくり運動の推進



平成23年度（第20回）ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクールの募集

活力ある農業の姿や農村の情景に親しみ、これらを描くことによって農業・農村のすばらしさを知るとともに、優秀作品を展示して広く県民の方々に農業・農村の理解と関心を深めていただくために開催します。

1. 応募資格 県内の小学校で学ぶ児童
2. 募集集テーマ 私が描く農業・農村
農村作業の風景、農家の人々の暮らし、市場や農産物直売所の情景、体験農業の様子など
3. 作品の規格 B3の画用紙（1～4年生はB4でも可）
4. 応募方法 小学校でとりまとめ、9月5日までに市町農政担当課に送付して下さい。
5. 表彰 小学年（1～2年生）、中学年（3～4年生）、高学年（5～6年生）の区分毎に、最優秀賞（栃木県知事賞）各1点、優秀賞（栃木県教育長賞・栃木県農政部長賞）各2点、優良賞（ふるさととちぎ21活性化塾長賞）各10点
6. 入賞作品の展示 10月15～16日に開催される「とちぎ“食と農”ふれあいフェア2011会場（栃木県庁15Fロビー）」で展示します。
また最優秀賞・優秀賞作品は、とちぎアグリプラザ3階ロビーで常設展示します。



参考 22年度最優秀賞作品

野木町立
南赤塚小2年
平野 恵里香さん
「パワーぜんかい
おばあちゃん
のこぎりかま」



上三川町立
本郷北小3年
岡田 莉佳さん
「かんびょうつむぎ」



野木町立
南赤塚小6年
平野 美田紀さん
「肥料まきをする
おじいちゃん」

平成23年度（第18回）美しいとちぎのむら写真コンテストの募集

美しい農村地域の風景や四季折々の自然を将来を担う中・高生に撮影いただき、広く農業・農村への理解と関心を深める契機とする。

1. 応募資格 県内の中学校・高校に在学する生徒
2. 応募テーマ 躍動する農業・農村の姿を撮ってみよう
部門1 農業に生き生きと携わる人々の姿
部門2 農地、水、農村環境を守る活動
3. 応募規格 四つ切り又はA4版カラーもしくは白黒プリント
（デジタル合成処理は不可）
4. 応募上の注意 作品は県内でフィルムカメラ、デジタルカメラで撮影した未発表の写真
応募点数は5点以内
5. 応募方法 応募写真の裏に応募票を貼付し、11月30日までの期間に農業振興公社に送付下さい。
6. 表彰 最優秀賞 各部門1点（栃木県知事賞）
優秀賞 各部門2点（栃木県農政部長賞）
入選 各部門10点以内
7. 入賞作品の発表 入賞作品は公社ホームページで紹介する。平成24年2月25日～3月2日に栃木県庁15階展望ロビーで展示をします。

参考 平成22年度最優秀作品



真岡市立長沼中学校1年生 杉山 佳那さん



宇都宮市立鬼怒中学校1年生 門馬加奈子さん

とちぎ発 元気農業 ふるさととちぎ21活性化塾だより52号

発行日 平成23年8月1日
編集・発行 ふるさととちぎ21活性化塾
所在地 〒320-0047 宇都宮市一の沢2-2-13
（財）栃木県農業振興公社内

TEL 028(648)9511(代) FAX 028(648)9517
URL : <http://www.tochigi-agri.or.jp>
Eメール : info@tochigi-agri.or.jp

